

## 表紙の説明

甦る金沢偕行社と

旧陸軍第9師団司令部庁舎

千川康夫 陸自63

東京都千代田区北の丸公園にあった「東京国立近代美術館工芸館（通称・国立工芸館）」が、兼六園に隣接する本多の森に移転し、2020年10月25日、開館の運びとなりました。日本海側初の国立美術館の誕生です。

写真（石川県企画振興部提供）は、国立工芸館の全景で、向かって右側が旧陸軍の金沢偕行社、左側が第9師団司令部庁舎です。

金沢偕行社は明治42年、石川護国神社横に建設され、バロック風の意匠を用いた木造二階建ての建築です。一方、明治31年に金沢城二の丸跡地に建設された第9師団司令部庁舎は、簡素なルネッサンス風の外観が特徴です。両者ともに陸軍経理部の設計によるものです。

国立工芸館の名誉館長には、元サッカー日本代表の中田英寿氏が就任され、日本工芸の魅力の世界に発信してくれることと期待しています。

石川県偕行会は移築前に建物の中を特別に見学させてもらいました。歴史の重みに、一同、深く感動したと思います。

（石川県偕行会会長）